

授 業 概 要

【授業科目名】放射線医学

【学 年】2年次

【担当者】非常勤講師

【単位数】1単位

【時間数】15時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 放射線の生体への影響を原理的に理解する。
2. 放射線の人体への影響に基づいた放射線防護の基本的な考え方を理解し、病院という現場で看護師がどのような事柄に注意する必要があるかを学ぶ。
3. 声帯に影響力をもつ放射線による「治療」についての全体像を理解する。
4. 放射線治療の原理や生体への影響に立脚した看護について概略を理解する。
5. がん患者とのかかわりについて考察する。

回	授業内容	授業方法
1	放射線とはどういうものか。人体・生体に放射線が与える影響 放射線防護の基礎	講義
2	画像診断と看護 ・画像診断における看護師の役割 ・画像診断における安全性の確保 ・画像診断におけるセーフティマネジメント	講義
3	各検査の特徴と検査時の看護 X線診断、CT、MRI、核医学検査、血管造影・IVR	講義
4	放射線治療の基礎 放射線治療の実際	講義
5	放射線治療における看護師の基礎	講義
6	放射線治療中に見られる急性有害反応と対処	講義
7	放射線による障害と防護	講義
8	試験	

【テキスト・参考書】

『臨床放射線医学』（医学書院）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 臨床栄養学

【学 年】 2年次

【担当者】 非常勤講師

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 栄養について基礎知識を理解する。
2. 栄養代謝の現状を知り、現状に適した栄養ケア、マネジメントの意義と方法を理解する。
3. 食事療法の必要性と具体的方法を理解する。
4. 栄養状態の評価、回復を促進するための食事、効果的な栄養指導の方法を理解する。

回	授業内容	授業方法
1	人間栄養学と看護 栄養とは 人間栄養学とは 医療と栄養 看護と栄養	講義
2	栄養素の種類と働き 5大栄養素の種類と働き	講義
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 食物の消化 栄養素の吸収 栄養素の代謝	講義
4	エネルギー代謝 食品のエネルギー量 体内のエネルギー代謝 エネルギー消費	講義
5	エネルギー消費の実習 自己の生活消費エネルギー量の算出と実情を知る	講義 実習
6	栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントの目的と評価判定法 臨床検査項目を知る	講義
7	栄養ケア・マネジメント 栄養スクリーニング、アセスメント、栄養計画 栄養ケア・マネジメント	講義
8	栄養評価とマネジメントの実習 症例に基づいた栄養マネジメント	講義
9	ライフステージと栄養 乳幼児期から高齢期までの栄養 妊娠・授乳期の栄養	講義
10	臨床栄養 栄養補給法 病院食 経腸栄養剤	講義
11	臨床栄養 循環器疾患・消化器疾患の食事療法	講義

12	臨床栄養 栄養・代謝疾患の食事療法 食品交換表を使った糖尿病献立作成実習	講義
13	臨床栄養 腎疾患の食事療法 血液・アレルギー疾患の食事療法	講義
14	臨床栄養 術前・術後の栄養管理 がん患者の栄養と食事療法	講義
15	試験	

【テキスト・参考書】

『栄養学』（医学書院） 『食品交換表』（文光堂）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 公衆衛生学

【学 年】 2 年次

【担当者】 非常勤講師

【単位数】 1 単位

【時間数】 15 時間（1 回 2 時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

公衆衛生と各種地域保健活動及び政策を学び、生活者の健康の保持増進のあり方と地域での看護職の役割を理解する。

回	授業内容	授業方法
1	公衆衛生とは何か	講義
2	公衆衛生の歴史 公衆衛生を学ぶ意義 公衆衛生システムと政策 日本の公衆衛生の特徴 保健所と市町村保健センター 諸外国の公衆衛生政策	
3	ヘルスプロモーションの考え方	講義
4	ソーシャルキャピタル 集団の見方と健康指標 統計情報の収集・利用 リスクファクター・スクリーニング 公衆衛生活動のプロセス ハイリスクアプローチ ポピュレーションアプローチ 保健師の仕事	
5	児童・母子対象の公衆衛生	講義
6	高齢者保健医療福祉 成人保健 生活習慣病対策 精神保健福祉 難病対策 健康危機管理と災害 感染症対策	
7	学校保健 産業保健 環境保健 国際保健	講義
8	試験	

【テキスト・参考書】

『ナーシング・グラフィカ 公衆衛生』（メディカ出版）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 関係法規

【学 年】 2年次

【単位数】 1単位

【時間数】 15時間（1回2時間）

【担当者】 非常勤講師

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

看護師をはじめとした医療従事者に関する諸法規について広く学び、医療従事者として知るべき法規の知識を得る。

回	授業内容	授業方法
1	医療法規	講義
2	薬事法規	講義
3	保健衛生・予防衛生法規	講義
4	環境保全・公害関係法規	講義
5	社会保障制度・福祉関係法規	講義
6	看護活動と法① 患者ケアによる法益侵害、看護職による薬物取り違え事件	講義
7	看護活動と法② チーム医療と信頼の原則、医療事故と届出義務の諸問題	講義
8	試験	

【テキスト・参考書】

『ナースィング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度』（メディカ出版）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 社会福祉

【学 年】 2 年次

【単位数】 1 単位

【時間数】 30 時間（1 回 2 時間）

【担当者】 非常勤講師

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

医療社会保障などに関連させながら、社会福祉の意義と社会福祉活動を理解する。

回	授業内容	授業方法
1	社会福祉の基本的性格 社会福祉と看護の関係	講義
2	社会福祉の歴史	講義
3	社会背景と生活支援の特徴	講義
4	社会保障制度と社会福祉 社会保障の概念や目的	講義
5	社会保険制度 医療保険制度と年金保険制度	講義
6	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義
7	介護保険制度創立の背景と介護保障の歴史 介護保険制度の概要①	講義
8	介護保障制度の概要② 介護保険制度の課題と展望	講義
9	生活保護制度 公的扶助制度	講義
10	社会福祉の分野とサービス 障害者福祉：障害者自立支援法	講義
11	児童家庭福祉、母子保健	講義
12	医療保障	講義
13	医療保障	講義

14	社会福祉実践と医療・看護 多職種連携の重要性（医療現場での連携・地域との連携） 社会福祉援助技術やソーシャルワーカーの役割	講義
15	試験	

【テキスト・参考書】

『社会保障・社会福祉』（医学書院）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】保健医療論

【学 年】2年次

【単位数】1単位

【時間数】15時間（1回2時間）

【担当者】非常勤講師

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 現代医療の経済面、社会面、倫理面などの現状、問題点および課題とその背景を理解する。
2. 看護職に期待される役割を考える。

回	授業内容	授業方法
1	医学・医療の歩み	講義
2	健康と疾病	講義
3	医学と医療 診断と治療	講義
4	我が国の医療供給体制	講義
5	現代医療に関する諸問題	講義
6	現代医療に関する諸問題 医療の今後の課題	講義
7	看護と看護職に期待される役割を考える	講義
8	試験	

【テキスト・参考書】

『医療概論』（医学書院）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 暮らしと福祉

【学 年】 2 年次

【単位数】 1 単位

【時間数】 15 時間（1 回 2 時間）

【担当者】 専任教員

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 退院支援・退院調整の目的、必要性について理解する。
2. 地域の社会資源を知り、活用方法を理解する。
3. 最新の福祉機器について知識を得る。
4. 成人看護学、老年看護学、地域・在宅看護論、社会福祉で学習した知識を統合して、退院支援を計画できる。

回	授業内容	授業方法
1	退院支援・退院調整の概要 事例を通して退院支援・退院調整計画書のワークシート作成	講義
2	事例を通して退院支援・退院調整計画書のワークシート作成	GW
3	社会資源を検討し、地域の情報を調査する	
4		
5	福祉機器の調査	GW
6		
7	まとめ 1) 退院支援・退院調整について 2) 福祉機器の調査から得た学びについて	講義
8	試験	

【テキスト・参考書】

『在宅看護論』（クオリティケア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 チーム医療論

【学 年】 2 年次

【単位数】 1 単位

【時間数】 15 時間（1 回 2 時間）

【担当者】 専任教員、非常勤講師

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

多様な場で生活する様々な対象に対し、多職種との共同学習を通して対象の目的達成に必要な看護の知識・技術を活用しながら、お互いの専門性を理解して連携方法を学ぶ。

回	授業内容	授業方法
1	チーム医療とは 多職種連携とは 看護師・理学療法士・作業療法士の役割 共同学習のオリエンテーション	講義
2	チームビルディング 看護学校・理学療法士科・作業療法士科の学生が、自己紹介をしながら、 チーム作りを行う。	GW
3	共通の事例についてグループワークを行う。	GW
4	事例については、根拠を述べながら各専門職の視点で	
5	意見交換・質疑応答を行う。	
6	お互いの職種の専門性についてまとめたものを発表・質疑応答を行う。	発表
7		
8	レポート作成	

【テキスト・参考書】

【成績評価方法】

グループワーク時の姿勢・態度

レポートの内容